

『エペソ 2:10私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。』

人間は神様によって造られました。この聖書の箇所で「良い」という言葉が3回も書かれています。聖書で一箇所に2回以上同じ言葉が出てきたら、とっても強調されて大切な言葉になります。だから「良い」が3回も出てきているので、私たちの人生はとっても良い人生に造られた事がわかります。量産されているイスなどは製品であって作品ではありません。製品は同じ格好です。人は皆違います。作品です。作品は作者が心を込めて作ったものです。作品は一点一点違います。私たちは神様の作品です。私たちには良い行いも備えられました。神様は私たちの幸せもあらかじめ備えて下さいました。その事を受け取れば良いのです。イエス様を知ったら、幸せの概念が変えられます。神様は良い神様で、素晴らしい幸せな計画して下さいます。しかしある人は「人生は悪いものだ」と言います。昔も今も多くの人と同じ様な問題を抱えているようです。でも聖書の中に問題に対する答えを見ることが出来ます。

『エペソ 2: 1 - 2あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、

そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。』

大切なものを誰でも持っていると思います。その大切なものを奪われると辛いですよね。この世の中では泥棒という高価な大切なものを奪う人がいます。泥棒にはいられると絶対になくなってはいけな物がなくなります。私たちにとって、とっても大切なものを失ってしまいます。多くの人たちが何者かによって、人生の最も大切な物が盗まれています。その正体が悪魔とか悪霊とか言われるものです。そして大切なものとして思い浮かぶのは結婚です。結婚も永遠に愛することを約束しますが、3組みに1組みが離婚しているようです。多くの人たちは大切な愛を失ってしまっています。それだけでなく親子関係、健康、経済など最も大切なものを失ってしまうようです。人生にも泥棒（悪魔、悪霊）が来て、大切なものを盗んでいます。でも聖書を通して、その泥棒がどのような存在かを知ることが出来ます。泥棒を知ることが出来れば、大切なものを守ることが出来ます。日本人は宗教心がとってもあるようです。決められた時にお墓参りしたりして、先祖をとっても大切にしています。その大切にすぎるあまり、何代に渡って先祖、家系の中に同じ問題が関わっているようです。そして同じ問題が繰り返されています。だから拝んでいる相手が、味方か敵かを知らないといけません。先祖の振りをした悪い奴である悪魔とか悪霊を受け入れてしまうと、悪いことが繰り返されてしまいます。もし私が死んで先祖になったとしても、いくら拝んで貰わなくても崇る事はしないと思います。だから自分が関わっている神様が、本当に良い神様かを知らないといけません。本当の先祖は騙されないように叫んでいるはずです。敵味方がはっきりしたら、どうしたらよいかを知ることが出来ます。本当の神様であるイエス様を知ると本物がどのようなものであるかを知ることが出来ます。そして失ったものが2倍になって帰ってきます。

『出22：7金銭あるいは物品を、保管のために隣人に預け、それがその人の家から盗まれた場合、もし、その盗人が見つかったなら、盗人はそれを二倍にして償わなければならない。』

聖書の良い神様は2倍にして返して下さいます。伝統と文化にとらわれないで本物は何かを知って、失ってしまったものを2倍にして取り戻していきましょう。（要約者：渡辺 将宏）